令和元年度 第２回学校評議員会 会議録

Ⅰ　日　時　　令和２年 ２月１９日（水）１０：００～１１：３０
Ⅱ　場　所　　本校会議室
Ⅲ　出席者　　学校評議員
　Ａ評議員（地区行政区長）
　Ｂ評議員（　同　上　　）
　Ｃ評議員（福祉行政代表）
　Ｄ評議員（関係機関代表）
　Ｅ評議員（本校ＰＴＡ会長）　　以上　５名
学校職員
　校長、副校長、事務長、総括教務主任
　小学部主事、中学部主事、高等部主事
　寮務主任、相談支援部長、進路指導主事　　以上 １２名

Ⅳ　会議内容

１　開　会

２　校長挨拶

・今回報告する今年度の実践と学校経営概要の報告及び学校評価の集計結果を踏まえて、重点に迫ることができたのか、ご意見をお願いしたい。

・コミュニティースクール（以下、ＣＳ）について、開かれた学校づくりの趣旨で、３年後から県ではＣＳの全面実施の計画がある。学校評議委員会は、経営方針や実践報告について意見を生かしていくための委員会であるが、ＣＳは更に一歩推し進めて地域の皆様と一緒に進めるというコンセプトである。全国的に支援学校のＣＳ導入は１２．１％で岩手は０％。県内の県立学校では未実施であるが、西和賀高校と高田高校をモデル校としての実践研究が進められている。４月１日からＣＳ設置規則が制定され、令和２年度７校分の予算措置がなされることとなった。学校運営協議会は１５名以内のメンバー構成で、設置する学校は評議員会を置く必要がなくなる。旅費・報酬等を設定し、年５回以内の会議回数となる。

・本校は、来年度の経営方針に「ＣＳの実現に向けた基盤づくりの１年とする」ことを盛り込んで、学校評議員会はそのままに、中身をＣＳに変える構想をもっている。

３　令和元年度学校経営の重点に迫る取組の結果について

資料をもとに、小学部・中学部・高等部について各学部主事から、寄宿舎について寮務主任から、分教室について担当副校長から、卒業生進路報告について進路指導主事から、相談支援部の支援状況及び課題について相談支援部長から説明した。

４　令和元年度学校評価の集計結果について

資料をもとに、担当副校長から説明した。

５　質疑応答（Ｑ＆Ａ）、提言（◆）

【Ａ評議員】

Ｑ．小学部の「生活のテーマ」とは、具体的に何か？

Ａ．学校の行事や季節の行事が「生活のテーマ」のメインとなる。例えば、今年度は「運動会に参加しよう」などのテーマを設定して学習に取り組んだ。季節行事（七夕、クリスマス、節分など）や友だちと一緒に出かけようというテーマもある。期間は１ヵ月単位で取り組んでいる。

◆ 農福連携について、一人の生徒に教えることは大変であり、作業がうまく進まないと聞いている。良い方法があればと思う。

【Ｂ評議員】

Ｑ．地域の方との交流は小学部だけか？中学部や高等部は地域の方との交流を設定しているのか？教職員の評価で、「進路指導・支援」や「地域との連携・協働、地域貢献」に係る先生方の評価が低いと感じる。

Ａ．中学部は 27 年間続けている「かあちゃん市」がある。月２～３回の交流に中学部の全生徒が関わっている。高等部は太田小学校や太田地区の振興センターや消防コミュニティセンター、体育館の清掃活動に取り組んでいる。評価に関して、直接携わっていない職員の評価が低くなっている可能性がある。

◆　今年、県道 13 号線沿いに「道の駅」がオープンする。他の地域で高校生等の生徒が盛り上げているように、支援学校の販売ができるか定かではないが、ＰＲできるとよい。情報交換しながらオープンを迎えればよい。作業製品の販売等をしてほしい。お客様の評価も高いと思う。技術をアピールし、その後の就職につながればと思う。いずれ、今後協議したい。

Ｑ．この地域の農業も人手不足である。農業への就労も考えられると思うが、卒業生の定着率はどうか？

Ａ．卒業生で離職のケースもある。様々な理由により離職につながっている。再度就職できるように関係機関と連携してサポートしている。福祉サービス利用者も、事業所を変更する等のケースがあり、同様に関係機関と連携してサポートしている。農福連携については、県社会福祉協議会関係者を招いて説明会を実施した。農業に対する興味関心をもてるように、説明の他にりんごの蜜度チェックなどを体験した。

【Ｃ評議員】

◆　共生社会の点で、地元で進んでいることが嬉しい。地域の皆さんに知っていただく機会を積極的にとった取り組みが良い。地域の中に溶け込んでいて、学校全体で交流に取り組んでいることを感じた。

◆　進路について、保護者による学校評価の「情報がない」について、個人的な意見であると思うが、福祉や関係機関への橋渡しをすれば、保護者はもっと情報を得ることができると思う。学校にぜひ橋渡しをしてもらえばと思う。

【Ｄ評議員】

Ｑ．ウェブページの要望に関わり、職員の負担はどうか？ウェブの更新は難しい現状がある。当園でも月１で更新しているが、負担感は結構ある。手続きも、限度もあり、毎日は厳しいと思う。

Ａ．起案された資料を確認する際、全世界に情報がでると考えた時、どのように捉えられるのかという視点で確認作業も相当な時間を要する。意図したことが伝わるのか、言葉も吟味し間違いがないか誤解が生じないかという観点で確認するため、時間がかかる。

◆　当園で、洗濯業務で利用者を雇用する予定である。掃除等についても雇用はできるかもしれない。

◆　築いてきたことを今後も継承して、地域に開かれた学校であってほしい。

【Ｅ評議員】

◆　生徒が作製している作業製品の種類も増えたし、アップデートもしている。外部に販売する機会はあると思うが、注文票を受けるなど工夫をしてはどうか。校舎では玄関など、見える位置に設置して興味をひければよいのではないか。

◆　農福連携は県の社会福祉協議会が支援学校を回って実施しているが、県農政部から講師を依頼してはどうか。農福連携に関わり、県内支援学校高等部の農作業班の生徒が就職につながらないことが大きい。地域の方を講師に招いて、作業の支援員としてお願いすることは難しいかもしれないが、立ち寄った時に意見をもらうこともできるかも知れない。数年前は、学校を退職した方を招いて放課後指導にあたることはあったが、実際は難しかった。農業は経験があるから可能であると思う。

◆　他県ではカフェを開いている学校もあり、調理から接待もできる。行事の時だけではなく、毎日解放すれば、散歩のルートや保育園の園児が立ち寄ることができる。その中で助言を頂くこともできる。人生の先輩方には癒やされもするし、生徒は異年齢の人とのつきあいができ、地域とのハードルが下がる。やろうとすれば可能性はいっぱいあると思うが、的をしぼって取り組んではどうか。ＣＳに向けて、人材を活用して取り組んでいただければと思う。

◆　ウェブページについて、学校は努力している。親としてインターネットで情報を得ようとした時、アクセス方法や行事など、知りたいことは限られる。基本的な内容がウェブページにあればよい。学校広報を掲載するかどうかも議論が必要で、難しいこともある。

◆　一斉メールについて、熊の出没などの情報はありがたいが、その後どのようになったのかまで知りたいところである。

◆　先日、小学部の児童から手書きの案内を初めて頂いた。返事を返したら、拡大して廊下に掲示していただいた。そのやりとりが虜になる。このように、立派な案内を配るのではなくても、児童生徒とのやりとりの機会があれば、思いを感じることができると思う。

◆　防災に係る常備品の購入について、常備品としての意味付けをすることも大切である。児童生徒の動機付けとして、防災教育の学習会をしてはどうか。経験などを積み上げていく手立てとして啓発活動を行ってはどうか。的を絞って取り組むことに実りがあるのではないか。

【校長から】

冒頭でも話したように、来年度はＣＳの基板づくりの１年としたい。具体的には、地域連携主任を設ける。教師主体で経営をしたい思いから、総括教務主任の他、地域連携主任を置き、外部との窓口とする。内と外をバランスよくマネジメントし、学校づくりに励みたい。貴重なご意見ご提言、誠にありがとうございました。

６　その他

特になし

７　閉　会